

研究の種類		研究課題					
重点化研究		富士火山北麓における噴火実態の検証					
研究代表者			研究期間				
吉本充宏		火山防災研究部	平成 28 年度 ~ 平成 30 年度 (3 カ年)				
共同研究者							
	火山防災研究部						
	産業技術総合研究所						
	防災科学技術研究所						
	東京大学地震研究所						
研究の目的							
<p> 現行の防災マップを改訂する際にその形状を大きく左右すると考えられる富士山北麓付近に分布する噴火堆積物の給源及び分布域を明らかにすることを目的とする。また、富士山の噴火堆積物の識別手法の確立を目指す。 </p>							
研究の目標							
<p> 富士山の火山噴出物でも防災上の緊急性が高いと判断された噴出物を試掘・トレンチ掘削の手法を用いて地質調査し、給源火口の特定や分布域を解明する。同時に、これまで定性的な噴火堆積物の識別手法に対し、分析機器を用いた定量化を検討する。これらを基に、ハザードマップ改訂に必要な基礎資料を提供する。 </p>							
全体の研究計画							
<p> (1) 雁ノ穴火口の火口位置の特定 ・火道(岩脈)位置から割れ目火口の北限の解明 ・雁ノ穴周辺の溶岩・火山灰層序の再検討 (2) 富士北麓に堆積した降灰の実績調査 ・未解明の火山噴出物を抽出し、分布域・給源火口の特定 ・分析機器を用いた色調・形状・粒径・発泡度などの定量化 (3) 富士北麓に到達したとされる火砕流の認定 ・トレンチ掘削による発掘地近郊の再調査 </p>							
期待される研究成果							
<p> ○雁ノ穴火口の火口位置の特定 掘削調査によって火道の痕跡である岩脈の分布を明らかにし、火口北限が特定されることが期待できる。 ○富士北麓に堆積した降灰の実績調査 富士山の降灰調査は、高い噴出量・噴出率のため多くが地下に埋積され、断片的な情報に限られてきた。本研究は先行研究を総括し、選定地を試掘・トレンチ掘削するため、想定される降灰実績の試料を得ることができ、詳細化することができる。 ○富士北麓に到達したとされる火砕流の認定 上中丸遺跡(第2次)発掘調査報告書が初めて火砕流の到達を示唆したことから、発掘調査地近郊でのトレンチ掘削を実施することで火砕流の真偽に関して認定できる。 </p>							